

第1・2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立小呂中学校
校長 枝広 隆志

1 単元名 「小呂島の未来と私たち」

2 単元の目標

- 小呂島の産業、人口の推移等の現状について理解し、全国離島学校サミット参加校の中学生に伝わるようプレゼンテーションソフトにまとめることができる。 (知識及び技能)
- 島の方から話や自ら調べた小呂島についての現状をもとに小呂島の課題を見だし、その内容を全国離島学校サミット参加校の中学生へ効果的に伝えることができる。また、全国離島学校サミット参加校の発表を聞き、小呂島との共通点や相違点を見いだすことができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- 小呂島が今後も幸せに暮らしていける島にしていきたいとの目的意識をもち、意欲的に島の皆さんからの話を聞いたり、島の一員として自分のできることを考え実践したりする行動を取ることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、小呂島の漁業を営む地域住民をゲストティーチャーとして迎え、その話や家族、島に在住する親戚等の話から感じ取った小呂島の課題そのものを題材とする。

本校の位置する小呂島では、1645年（正保2年）の移住開始から漁業を主産業都市栄えてきたが、近年の気候変動等により漁獲高が減少するなど漁業の不振、それに伴う人口の急激な減少、高齢化の加速により、従来の産業構造のままでは島が立ち行かなくなる大きな危機を迎えている。また、最盛期で62名であった小呂小中学校の児童生徒数は、現在小学生7名、中学生3名、児童生徒合計10名まで減少し、学習活動にも制限が加えられる状況にある。

その中で、小呂島では漁獲量を増やすための新規の漁法への挑戦、魚介類の加工・流通等6次産業化の模索、環境保全のための活動、観光業などの産業の多角化等、島の生き残りをかけた取組を始めたところであり、島の未来を担う一住民として、島の現状を知り島の未来を創る主体として行動する意識をもち、自らのできることを実践する力をつける格好の教材である。

(2) 生徒観

本校は超小規模校であり、中学生は1年生2名、2年生1名の計3名しか在籍していない。全員が島で生まれ育ち、幼いころからきょうだい同然に過ごしてきたため、生徒同士のコミュニケーションは円滑であるが、固定された小さな集団での生活に慣れているため、新たな人間関係を構築したり、島外の人とのコミュニケーションをしたりする経験はほとんどない。本単元は、全国離島学校サミットの間を通して、小呂島の現状や自らの考えを伝えたり、他の島と小呂島の現状を比較し共通点や相違点に気づき考えを深めたりといった思考力・表現力の伸長を図ることができる。

また、本校は施設一体型の小中併設校であり、同一校長のもと、小学校の時から系統的に小呂島についての学習を行ってきた。小学生の間は、主に島のよさに焦点を当て、郷土に誇りをもてる児童の育成に重点を置いてきた。中学生の発達段階として、敢えて島の課題にも目を向け、それを解決していく主体となっていく思いを強くし、実際の行動に移していく本題材の意義は極めて大きい。

(3) 指導観

本単元の学習に当たっては、まず漁業に携わる小呂島の住民をゲストティーチャーに迎える。漁獲量の推移、獲れる魚種の変化等、島の漁業を通して実際に肌で感じる島の環境の変化について知識を深めさせたい。また、人口の減少、高齢化などの問題についても改めて考える機会としたい。

次に、その課題を解決するため、小呂島で実際に行っている取組について調べる。ゲストティーチャーによって提起された問題の中から、各自が特に関心のある問題について、島民への聞き取り等によって、どのような取組を行っているのかを調べさせる。温暖化による藻場の喪失とその再生事業、加工産業への取組や新規の漁法の採用、また観光産業への参入など、島として生き残りをかけて取り組んでいることに行きつけるよう支援したい。

その調べた内容は、プレゼンテーション等でまとめ、全国4つの島の中学校が参加する「第1回全国離島学校サミット2022」で発表する。すでに、交流活動等で顔見知りになっている全国の離島学校の生徒に、分かりやすく小呂島の現状と取組を伝えられるよう、資料の作成、発表の準備を進める。「全国離島学校サミット」では、小呂島の現状を分かりやすく伝えるとともに、同じ離島でありながら島の規模、産業構造、気候風土も違う他の島の発表を聞き、意見交流することによって、課題は様々ではあるが、それぞれ自分の島を愛し、誇りに思い、それぞれの課題を解決しようとする姿に触れることで、多様性を尊重する姿勢を身に着けるとともに、その思いの共通点に気づかせたい。

さらに、その後のまとめを行う中で、自らの生き方を考えさせ、結果として、授業としての「全国離島学校サミット」終了後も参加校の生徒と交流を続け島の将来について意見を交わしあう、環境を保全するため小呂島の清掃活動に自主的に参加する、小呂島の魅力を様々な形で島外に発信するなどの行動を自主的に言い、持続可能な島を創る主体となり、島の未来に明るい兆しを感じられるよう支援したい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点

- ・ 相互性…海の豊かさを基盤とした漁業と気候変動問題等の自然環境には密接な関連性がある。また産業の多様性と経済問題、人口の流出等にも深い相互性があり、課題を解決するためには多角的な取組が必要であること
- ・ 有限性…これまで当たり前のように思っていたこと小呂島の存在は、先人たちの普段の努力によりもたらされたものだとすることを再認識する。そして、その努力は今後も続けていかなければ、島の将来はないこと
- ・ 責任制…小呂島が将来にわたって住み続けられる島であるためには、その島の主体である自分自身が行動を起こさなければならないこと
- ・ 多様性…全国には多くの離島があり、類似性も多いが、その課題は様々であること。その解決のために多くの人が、多くの方法で取り組んでいること

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・ 批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

自分たちが海の豊かさを損なう行動をとっていなかったか、環境保全の力になれていたかを見つめ直す

- ・ 多面的・総合的に考える力（システム・シンキング）

海の自然環境を守りながら産業を守り、生活を豊かにしていくことを成し遂げる方法について、またそのために今できることを考える

- ・ コミュニケーションを行う力

「第 1 回全国離島学校サミット」での発表や意見交流を通して、自分の考えをつくりあげる

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・ 世代間の公正

小呂島を創り上げた先人に感謝するとともに、より豊かな島を次の世代に引き継いでいく努力をすることが大切である

- ・ 自然環境や生態系保全を重視する

海の豊かさは自然環境の保全なしでは守れないことを知り、環境の負荷を取り除くとともに、「豊かな海」を守るための行動を起こす

- ・ 幸福感を大切にする

自分や家族の育った小呂島に感謝するとともに、島で暮らす喜びを再認識する

・ 達成が期待される SDG s

- 4 教育
- 8 経済成長と雇用
- 11 まちづくり
- 13 気候変動
- 14 海洋資源

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①小呂島の産業、人口等の現状について理解している。 ②全国離島学校サミット参加校の中学生に伝わるようプレゼンテーションソフトにまとめることができる。	①島の方から話や自ら調べた小呂島についての現状をもとに小呂島の課題を見いだすことができる。 ②小呂島の課題やその解決のための取組を、全国離島学校サミット参加校の中学生へ効果的に伝えることができる。 ③全国離島学校サミット参加校の発表を聞き、小呂島との共通点や相違点を見いだすことができる。	①小呂島を今後も幸せに暮らしていける島にしていきたいとの目的意識をもち、意欲的に島の皆さんからの話を聞くことができる。 ②島の一員として自分のできることを考え実践したりする行動を取ることができる。

5 単元の指導計画（全9時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 小呂島の現状や課題について、ゲストティーチャーの話を聞き、島の課題をつかみ、今後の活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獲れる魚の業種が変わるとともに、漁獲量が減少している。 ・小呂島近海の藻場が喪失し、海中の環境が激変している。 ・漁師の高齢化が進むとともに、島を離れる決意をした若手漁師が増えて、人口減少高齢化が進んでいる。 	<p>○ ゲストティーチャーとの打ち合わせを綿密に行い、課題を提起してもらうとともに、その解決のための取組については、今回は最小限にとどめておく。</p>	<p>ア① (知・技) ウ① (主体的)</p>
<p>2 小呂島の抱える課題の中で、それぞれが特に関心のある課題を選択する。</p> <p>3 その課題を解決するため小呂島で行われている取組について、島民への聞き取り等を行い、調べ学習を行う。</p> <p>4 調べた内容をプレゼンテーションソフト等でまとめ、分かりやすく発表する準備を行う。</p>	<p>○ ゲストティーチャーの話の中から選択肢を設定し、生徒それぞれの選ぶ課題が集中しないよう配慮する。</p> <p>○ それぞれの課題について詳しい島民をリストアップしておき、必要に応じて紹介する。</p> <p>○ 聞き取りの際のマナー指導などを行い、円滑に聞き取りができるよう配慮する。</p> <p>○ 「全国離島学校サミット」での発表を意識させ、小呂島について詳しく知らない人にも分かりやすく発表できるよう支援する。</p>	<p>イ① (思判表)</p> <p>ア② (知・技)</p>
<p>5 「全国離島学校サミット」で、小呂島の現状、取組を発表するとともに、他の島での取り組みについて聞く。</p>	<p>○ 相手に伝わりやすい声、話し方。表情などに留意させる。</p> <p>○ 小呂島と他の島の共通点や相違点に着目させ、比較しながら聞かせる。</p>	<p>イ② (思判表)</p> <p>イ③ (思判表)</p>
<p>6 活動を振り返り、これから小呂島のために自分たちができることについて考える。</p>	<p>○ 各自が島の住民の一員であること、未来の担い手の主体であることの思いを新たにできるよう配慮する。</p> <p>○ 自分のできる行動について具体的に考えさせ、それを実践に移せるよう配慮する。</p>	<p>ウ② (主体的)</p>